

組合

New Face!

★ くざき鯨おべん 企業組合



松井専務理事(左)と奥田理事長(右)

国崎(くざき)

国崎町は、志摩半島の最東端にあるリアス式海岸に囲まれ海の神様が宿る町として知られているところで、約2千年前には皇女倭姫命(やまとひめのみこと)が伊勢神宮ご鎮座の後、神に供えるささげ物を献上する地を求めてこの地を訪れたという伝説があります。

おべん

その時、「おべん」という名の海女から差し出された鮑のあまりの美味しさに感動され、後に、伊勢神宮へ「熨斗(のし)鮑」や「海産品」を献納することとなりました。

今もその伝統は大切に守られ、当組合からも奉納しています。

奥田理事長

漁師であり、福祉関係の仕事にも携わり、農協の役員でもある奥田理事長は、小学校や保育所が廃校となり、子ども達の集まる場所がなくなりつつあるという現状から、今後、この国崎地域の過疎化が進んでいくという危機感を抱き、地域が活性化するためには、地元若者が働くことのできる組織が必要であると感じました。

このコーナーでは、平成25年度以降に当中央会に加入いただいた組合の活動状況等をご紹介します。

平成25年7月に当中央会に加入された「くざき鯨(あわび)おべん企業組合」の奥田佐吉理事長と松井和夫専務理事にお話を伺いました。

海の宝石、国崎の鮑

企業組合

そこで、国崎への熱い思いをもった漁師、魚屋、旅館業、建設業、漁協の職員といった様々なキャリアを持った同志8名に声をかけ、平成22年4月「くざき鯨研究会」を発足し、商品開発に取り組み一方、鈴木三重県知事と話し合いの場をもつなど行政にも研究会の活動を理解していただきました。

そして、平成25年7月には、その研究会で行ってきた事業を更に拡大させるため、9名で「くざき鯨おべん企業組合」を設立、新たなスタートを切りました。

鮑(あわび)

当組合の事業は、鮑等の販売、鮑やサザエ等を活用した加工食品の製造・販売、そして、地元農林水産物及び加工品の広告・宣伝です。

組合員の違った目線から活発な意見が飛びかう中、地場の海産物を活かして地域の活性化につなげようと商品開発に取り組み、「あわびめし」や「さざえ入りあらめ佃煮」、「海の七草あられ」などをつくり、全国から注

目を集めることになりました。

その後も様々な新製品を開発、販売、六本木ヒルズや東京ビックサイトにおいて、試食会などのイベントを開催するなど、多彩なPR活動を展開。メディアにも多くとりあげられました。



「鮑」千個 HOSU」の模様

今年7月には、鳥羽HOSUプロジェクト協議会主催によるイベント「鮑」千個HOSU(ほす)に出店し、鮑のお造り、焼き鮑、蒸し鮑、鮑の天ぷら、鮑カレー、鮑コロッケといったあわび千個分がふるまわれ、当日は、地元の方だけでなく県外・市外からも大勢のお客さんが訪れ、旬の鮑を堪能していました。

平成26年7月からは、毎月第一、第三日曜日に国崎漁港入口で「くざき朝市」を開催しています。国崎で獲れた鮮魚な野菜、干物などをお値打ちな価格で提供しています。一度お立ち寄りいただければいかがでしょうか。



当組合商品「あわびめし」など

DATA

くざき鯨おべん企業組合

〒517-0031 鳥羽市国崎町132番地2

TEL.0599-33-6867

FAX.0599-33-7267

組合員数/9名

設立/平成25年7月1日

中央会加入日/平成25年7月16日

<http://kuzakiawabi.wix.com/home>